

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 1 月 15 日 (2009.1.15)

【公開番号】特開 2008-1756 (P2008-1756A)

【公開日】平成 20 年 1 月 10 日 (2008.1.10)

【年通号数】公開・登録公報 2008-001

【出願番号】特願 2006-170543 (P2006-170543)

【国際特許分類】

C 0 8 L 27/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/26 (2006.01)

C 0 1 F 7/00 (2006.01)

H 0 1 B 3/00 (2006.01)

H 0 1 B 3/44 (2006.01)

H 0 1 B 3/28 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 27/00

C 0 8 K 3/26

C 0 1 F 7/00 C

H 0 1 B 3/00 A

H 0 1 B 3/44 B

H 0 1 B 3/28

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 11 月 20 日 (2008.11.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

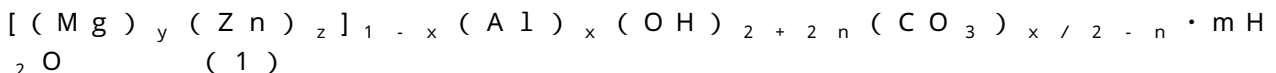
【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

下記 ( i ) ~ ( v ) により定義付けられたハイドロタルサイト粒子よりなることを特徴とする電気絶縁性が優れた含ハロゲン樹脂および含ハロゲンゴム用受酸剤。

( i ) ハイドロタルサイト粒子は下記化学構造式 ( 1 ) で表される。



但し、式中、 $x$ 、 $y$ 、 $z$ 、 $n$  及び  $m$  は下記条件を満足する値を示す。

$$0.1 \leq x \leq 0.5, x + z = 1, 0.5 \leq y \leq 1$$

$$0 \leq z \leq 0.5, 0.01 \leq n \leq 0.03, 0 \leq m < 1$$

( i i ) ハイドロタルサイト粒子は、レーザー回折散乱法により測定された平均粒子径が  $0.2 \sim 2 \mu$  であり、

( i i i ) ハイドロタルサイト粒子は、BET 法により測定された比表面積が  $1 \sim 50 m^2 / g$  であり、

( i v ) ハイドロタルサイト粒子はナトリウム化合物を Na 金属に換算して 0.03 重量% 以下含有し、

( v ) ハイドロタルサイト粒子は、珪素化合物、リン酸化合物および硼素化合物よりなる群から選ばれた少なくとも 1 種が、それぞれ Si、P および B 原子に換算して合計で  $0.05 \text{ 重量} \% \sim 3 \text{ 重量} \%$  表面に存在する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

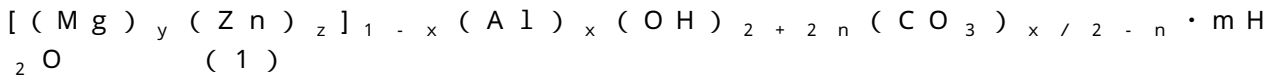
【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

かくして、本発明によれば、

下記 ( i ) ~ ( v ) により定義付けられたハイドロタルサイト粒子よりなることを特徴とする電気絶縁性が優れた含ハロゲン樹脂および含ハロゲンゴム用受酸剤が提供される。

( i ) ハイドロタルサイト粒子は下記化学構造式 ( 1 ) で表される。



但し、式中、 $x$ 、 $y$ 、 $z$ 、 $n$ および $m$ は下記条件を満足する値を示す。

$$0.1 \leq x \leq 0.5, x + z = 1, 0.5 \leq y \leq 1$$

$$0 \leq z \leq 0.5, 0.01 \leq n \leq 0.03, 0 \leq m < 1$$

( i i ) ハイドロタルサイト粒子は、レーザー回折散乱法により測定された平均粒子径が  $0.2 \sim 2 \mu$  であり、

( i i i ) ハイドロタルサイト粒子は、BET法により測定された比表面積が  $1 \sim 50 m^2 / g$  であり、

( i v ) ハイドロタルサイト粒子はナトリウム化合物をNa金属として 0.03重量% 以下含有し、

( v ) ハイドロタルサイト粒子は、珪素化合物、リン酸化合物および硼素化合物よりなる群から選ばれた少なくとも1種が、それぞれSi、PおよびB原子に換算して合計で  $0.05 \text{重量}\% \sim 3 \text{重量}\%$  表面に存在する。